




将来を見据えた持続可能なまちづくりを加速させるために

私が考える官・民・地域連携(案)

日頃よりご意見ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。私は、議席をお預かりする者として新庄最上地域のために今何をすべきかを最優先に職務に当たっております。

病院、大学、道路整備といったことがようやく進んできました。今こそこれらを活かしてどんなまちにしていけるか、将来に向けたまちづくりをしなければなりません。道の駅については県内の他地域で既存施設をインターチェンジ付近に移転することが決まっています。それだけインターチェンジ付近とは魅力ある場所なので、新庄インターチェンジは東北の十字路です。新庄最上にとって今しかないチャンスだと考えます。このチャンスを逃さず次の世代につなげていくのが私たちの責任ではないでしょうか。私の考えが最善とは思っていません。異なる意見、素晴らしいアイデアに耳を傾けこの地域を良くしていくことが使命だと考えます。ぜひ皆様のご意見をお寄せください。



道の駅

道の駅建設により市の負担が増え、市の財政に影響を与えるのではないかと問題について

道の駅に行政(市町村)が設置するのはトイレ、駐車場、情報発信施設とされています。その他の部分、施設については民間資金を活用できると考えています。どんな事業もタダではできません。お金がかかるのは当然ですが、市町村の負担をできる限り少なくし収益を上げ、地域に利益をもたらす仕組みや方法を議論することが必要ではないでしょうか。

- 民間の力を使って行政(市町村)負担を減らす例
- 例1) 家賃収入を得る
「道の駅米沢」はテナントからの家賃収入により借り入れ返済に充当。
 - 例2) 建設時点から民間資金を導入する
PFI(Private Finance Initiative:プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。
 - 例3) 公共施設の中に民間の施設を建設し、独自に管理・運営する

そもそも、いまさら道の駅必要か問題について

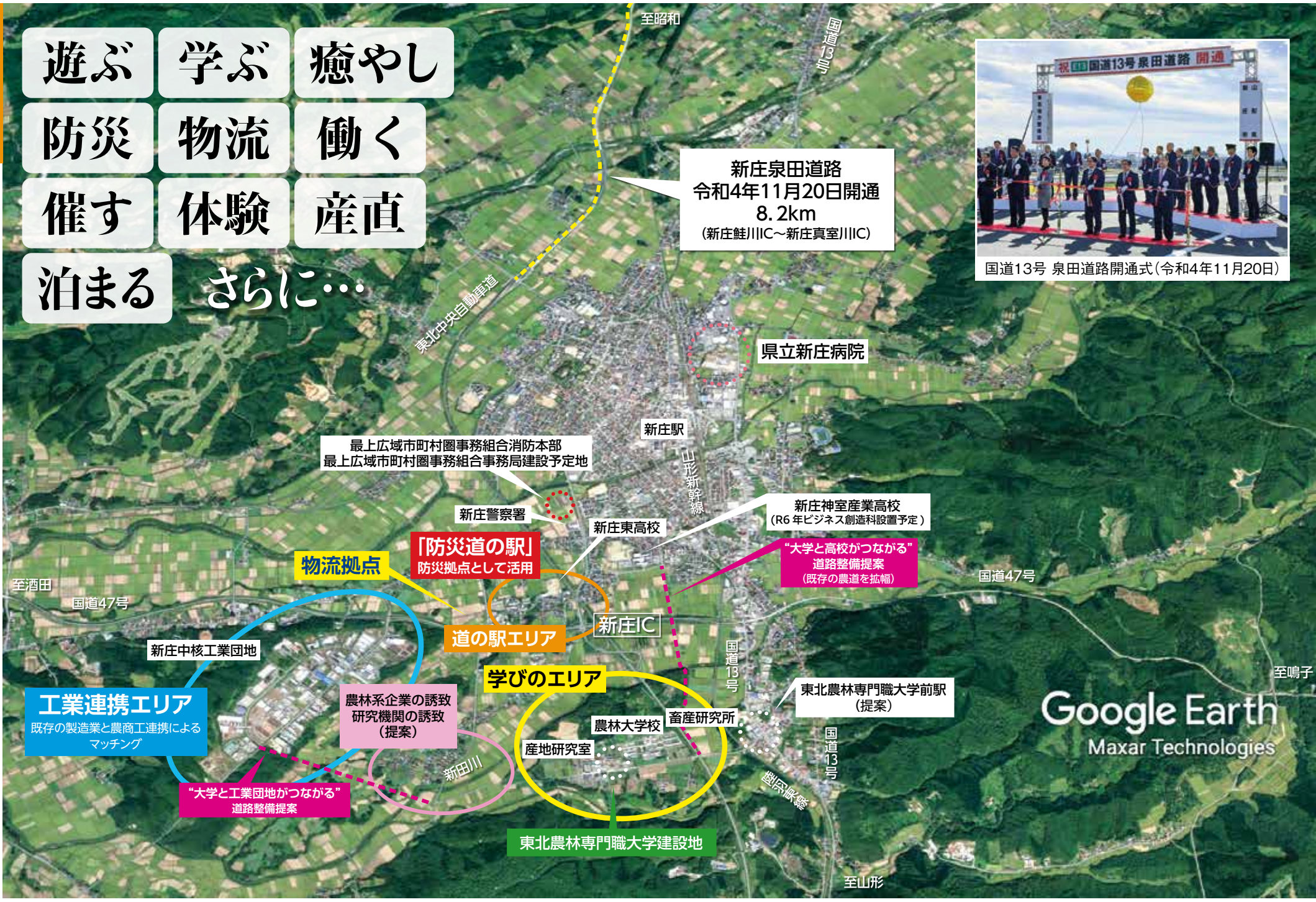
東北中央道の開通により高速道の交通量が増え、国道13号は減少していることが既に国土交通省から発表されています。国は、今後秋田、酒田まで全線開通することで高速利用者、交通量の増加を予想しています。そのような中で、この地域に降りてもらい交流人口、関係人口を増やすための一つの方法が「道の駅」ではないでしょうか。

人口減少社会にあって、外からのお金を稼ぐことが必要です。この地域でお金を使ってもらう場所を作らなければなりません。そういう場所は道の駅でなくてもよいが、現実的に何ができるか、8市町村で道の駅に取り組むことが一つの方法ではないでしょうか。

道の駅は食事、産直施設、お土産を買う場所をイメージする方も多いと思いますが、これからはそれだけでは難しいのではないのでしょうか。似たような施設は多く商品も類似しています。また、通信販売で何でも手に入る時代です。いくら立地が良くても品物を売るだけでは魅力的と言えるでしょうか。私は、新庄最上でしかできない体験を提供することも大切だと考えます。道の駅の施設に加え市内郡内に足を伸ばしてもらい各市町村それぞれの特徴ある体験をして長時間滞在できるような仕掛けが必要だと考えます。また、隣接する大学と連携することで他にはない道の駅にできると考えています。体験、滞在、時間消費といったことが交流人口、関係人口の増加や消費行動、購買意欲につながるのではないのでしょうか。

道の駅を作れば全てうまくいくわけではありません。道の駅も競争の時代です。他地域にまねのできないアイデアを出し続けていくことが必要です。知恵を出し合い、特に若者の声、想いを聞きこの地域がよりよくなるようにするための一つの拠点としていきたい。

スピード感をもってチャンスを活かせるか、今しかないチャンスを逃さずに進めなければなりません!



東北農林専門職大学

令和6年4月開学



この少子化の時代に新庄に大学などできるわけがないと言われてきましたが、いよいよ来年開学を迎えます。新たに学生や教職員の方が生活する予定となり大変喜ばしく思います。学生にとって魅力ある大学にしていかなければなりません。

しかし、私が目指しているのは、大学を作り学生を住まわせるだけではありません。大学を核として農林業の更なる発展、継続、新たに農林業関連の企業を誘致すること、農林業関連の研究機関を誘致すること、そして学生、教員、地元農林業関係者、地元企業などが連携し、共同研究、共同開発、実証実験などを進めていくことで地域全体が高まっていくことです。卒業生がこの地域に残りたくなるような施策も進めなければなりません。

さらに、地元の子どもたち特に高校との連携をさせたいと考えています。もちろん、大人のリカレント教育や学び直しなども想定されます。大学ができることによりこの地域の教育環境をさらに向上させ、将来への可能性を広げていきたいのです。

大学ができれば終わりではなく、これからは大学を活用しまちづくりをどうするかが重要ではないのでしょうか。大学と地域の連携の可能性は無限大に広がっています。

防災道の駅・物流拠点としての道の駅について

国は2020年から道の駅の「第3ステージ」の考え方として、防災拠点化を重視しています。広域的な防災拠点を道の駅に整備していくものです。

高速道整備が進む新庄は、東北の十字路として、また県北の要として地理的に重要な場所です。災害発生時には、避難所として、また警察、消防、自衛隊等が連携し活動できる拠点としての整備が重要だと考えます。新庄インターチェンジ付近には既に新庄警察署が移転し、今後は最上広域消防本部の移転も決定しています。また、物流拠点(トラックの基地)としての機能を十分発揮できる場所だと考えます。道の駅には道路利用者や地元住民の利便性だけでなく多様な機能を持たせることで地域の拠点としていくことが重要です。




県政報告(令和3年1月)にて提案した道の駅周辺イメージ(案)

東北農林専門職大学(仮称)の開学に向けたスケジュール

- 令和4年11月 ~ 文科省大学設置・学校法人審議会における審査
- 令和5年 8月 同審議会からの答申、設置認可
- 9月 ~ 学生募集開始
- 10月 推薦型選抜実施(12月まで)
- 12月 校舎完成(令和4年7月着工)
- 令和6年 1月 ~ 一般選抜実施(2月まで)
- 4月 開学



東北農林専門職大学(仮称)校舎新築工事安全祈願祭(令和4年7月15日)